

特集「歴史に学ぶ危機への処方箋」の刊行にあたって

本号は、不肖私が、滋賀大学経済学部在職35年を経てこの3月に定年退職を迎えるにあたって組まれた特集号である。そこで特集テーマを「歴史に学ぶ危機への処方箋」と定め、私の研究・教育活動にゆかりのある多士済々の諸氏に健筆を揮っていただくことにした。

こうしたテーマ設定をしたのは、現在の日本が、未曾有の危機に直面しているように思われ、それを乗り越えるためにも我々の祖先や先輩たちがこれまで様々な危機に直面しつつどのようにしてそれを乗り越えてきたか、その知恵と努力に学ぶことが肝要と考えたからにほかならない。

私見によれば、現在日本が直面する危機とは次のようなものである。

第一に、自由主義と共産主義の対立がいよいよ先鋭化し、眼前に迫る勢いで逼迫している点である。それはアメリカと中華人民共和国との貿易戦争や、朝鮮半島・香港・台湾における政治状況に明確に現れているだけでなく、我国においても領土侵犯、土地買収、知的財産や高度な技術の詐取、サイバー攻撃、歴史・思想・教育面における攻防というように深く広く進展している。

第二に、経済の実態に目をやると自由主義と共産主義の両体制はともにグローバルな市場展開を図るなかで巨大な経済発展を実現しているにもかかわらず、ともに自国内でかつてないほど階層間・地域間の格差を拡大させ、犯罪・貧困・衛生・医療・インフラ整備・省エネルギーなどの点でも多くの問題を抱えている。

第三に、人・物・金のグローバルな展開は世界的に、各国固有の国柄・文化・民族等に打撃と痛痒を与えて多くの軋轢と摩擦を生じ、社会的な格差拡大と結びついて内外にわたる民族間・文化間の対立を惹起して紛争や衝突を引起している。

第四に、上記の事態が進展しつつある現在は、同時にビッグデータ解析と人工知能を基礎とする第四次産業が進行中であり、その過程で人類は未曾有の利便性や効率を手に入れる一方で、既存社会の組織や構造そのものが大きく動揺し、破壊されて社会全体が極めて不安定な状態に陥っていくであろう。

第五に、他方で地球規模の環境破壊と気候変動が、大規模災害(洪水・地震・火災等)を常態化させつつあることである。

そしてこれらの諸現象は連動しつつ複合的に作用して現出する様相を呈している。

本特集は、こうした現在直面する危機を全面的に分析し、直接その処方箋を示すことを目的としたものではない。本特集の趣旨は、こうした現在直面する危機を念頭に、その処方箋を考えるための歴史的な知恵や教訓を、明治から現代にいたる日本の歴史の中に見出していかうとするものである。思えば、幕末開港から明治維新、そして幾多の戦争を経て今日に至る過程は、現代と変わらないほどの危機の連続であったといってよい。我々の祖先は、各々の時代で直面する危機に立ち向かい、それにどう対処してきたのか。その知恵と教訓に学ぼうというのがこの特集号の眼目である。

執筆者諸氏には、各々の専門分野に即して、存分に健筆を揮っていただいた。改めてその労に感謝する次第である。

2020年2月

滋賀大学経済学部教授
筒井 正夫